

# 北海道倶知安町における高齢者介護福祉施設

前 田 博 司\*・前 田 剛 司\*\*

## Care Welfare Establishments for the Aged in Kutcan Town, Hokkaido

Hiroshi Maeda and Takeshi Maeda

This paper analyzes present state and problems of care welfare establishments for the aged in Kutcan town to give an example of the heavy snow area by means of the questionnaire investigation to inhabitants. As a result, followings are clarified.

- 1) The aging rate of the town is low unlike other heavy snow areas. It considers that this is because out door sport such as skiing is popular in the town.
- 2) There are many aged people who are in trouble with the snow removal of the roofs and the roads.
- 3) The use rate of the establishments is low in the town. But, inhabitants are hoping for the fulfillment of the stay type establishments and the hospitalization establishments.

### 1. はじめに

多雪地における高齢者介護福祉施設は、冬季の利用者の通行路の確保など、積雪対策が求められる上に、過疎化やそれに伴う高齢化傾向が顕著であり、施設の整備も財政的に困難であることが多いなど、多くの問題を抱えている。そこで、筆者らは福井県和泉村および今庄町、新潟県津川町などにおいてアンケート調査を行い、多雪地における高齢者介護福祉の現状と問題点について検討し、その結果を報告した<sup>1),2),3)</sup>。

本報では、それに引き続き、北海道倶知安町において同様の調査を行った結果を報告する。

倶知安町は、これまでに調査した地区と異なり、高齢化率が低いという特殊な状況にあるので、高齢化率が高い地区と比較することを目的として調査を行った。

### 2. 調査の概要

#### (1) 倶知安町の現況

倶知安町は、北海道後志地方の中央に位置し、後志支庁所在地であるのをはじめ、官公庁や各種団体が集積し、後志地方の行政・経済の中心的な役割を担っている。面積は 261.24km<sup>2</sup>、人口は 16,186 人である（平成 15 年 10 月 1 日現在）。羊蹄山やニセコ連峰に囲まれ、数々のスキー場がある。冬はスキーやスノーボード、春夏秋はカヌーなど、年間を通してアウトドアスポーツを主とする観光が主要産業となっている。また、じゃがいもやビート・小豆・スイートコーン・メ

---

\* 建設工学科建築学専攻 \*\* 歯科医師（元・応用理化学専攻大学院生）

ロン・アスパラガスなどの畑作物も特産となっている。

北海道随一の豪雪地である倶知安町の歴史は豪雪との戦いの歴史であるとも言え、冬の交通確保をはじめとする克雪対策は全国的にも高い評価を受けている。ここ数年の最深積雪量は 1.2m から 2.2m で、極値は昭和 45 年の 3.12m である。

人口 16,186 人のうち、65 歳以上の高齢者数は 2,963 人で、高齢化率は 18.31% である。また、75 歳以上の高齢者数は 1,310 人で、後期高齢化率は 8.09% である。これは、多雪地としては異例の低い値で、後志支庁内でも特に低い（表 1 参照）。

## (2) 倶知安町における高齢者介護福祉施設

倶知安町における高齢者施設は以下の通りである。

### ①特別養護老人ホーム〈羊蹄ハイツ〉

定員：70 名

デイサービスセンター・短期入所生活介護事務所・ケアプランニングセンター・グループホームを併設

### ②介護老人保健施設〈麓華苑〉

定員：100 名

在宅介護支援センターを併設

特別養護老人ホーム〈羊蹄ハイツ〉では、現在、男性 20 人、女性 50 人が利用しており、ショートステイでは 7 人が入所している。この施設利用者の要介護度の平均は 4.11% と高い。また、入所待機者は 64 名である。

冬季積雪時は、玄関および非常口の除雪は欠かさず行い、敷地内の雪処理は業者に委託している。また、施設内には床暖房が設備されている。

## (3) アンケート調査

住民に対するアンケート調査は、調査への協力の承認が得られた世帯に用紙を配布し、回収したが、協力を得られたのは 45 世帯であった。調査内容は、家族構成・要介護認定者数・サービス利用の有無・介護福祉施設への要望・高齢者の生活・介護福祉に関する意見等である。

## 3. アンケート調査の結果

### (1) 家族構成および要介護認定者数

65 歳以上の高齢者がいる世帯は 27 (60%) で、そのうち高齢者のみの世帯は 14 (31%) であった。また、家族に要介護認定者がいる世帯は 2 (4%) だけで、要介護度はいずれも 2 であった。

表 1. 後志支庁の高齢者人口

市町村名	総数 (人)	65 歳以上 (人)	高齢化率 (%)
小樽市	147,124	37,664	25.6
島牧村	2,174	726	33.4
寿都町	3,977	1,256	31.6
黒松内町	3,504	1,001	28.6
蘭越町	6,175	1,746	28.3
二セコ町	4,626	1,133	24.5
真狩村	2,505	658	26.3
留寿都村	2,163	480	22.2
喜茂別町	2,783	783	28.1
京極町	3,555	957	26.9
倶知安町	16,165	2,962	18.3
共和町	7,216	1,750	24.3
岩内町	16,860	4,171	24.7
泊村	2,128	735	34.5
神恵内村	1,212	430	35.5
積丹町	3,183	1,138	35.8
古平町	4,379	1,370	31.3
仁木町	4,131	1,235	29.9
余市町	23,336	6,157	26.4
赤井川村	1,351	307	22.7
後志支庁	258,547	66,659	25.8

## (2) 施設・サービスの利用状況と希望

65 歳以上の高齢者に、どのような施設を利用したことがあるかを聞いた結果は、「特別養護老人ホーム」「高齢者生活福祉センター」「その他」が各 1 だけであった。そして、受けたサービスは「訪問介護」が 1 と「日帰り介護」が 2 であった。

一方、65 歳以上に限定せず、全員に今後どのようなサービスを利用したいかを聞いた結果では、図 1 のように、「訪問介護」「訪問看護」「日帰り介護」「長期入所生活介護」など希望が多かった。

サービス内容の希望は、訪問介護で「日常生活の世話」や「調理」、訪問看護で「健康診断」や「健康相談」が多かった。デイサービス・ショートステイ・ロングステイでは、「食事・入浴」の他、「健康診断」や「生活相談」の希望も多かった。

## (3) 介護福祉に関する不安

介護福祉に関して不安を感じていることは、図 2 のように、「入院できる医療施設が不足している」「積雪時が不安」「緊急時の対応が不安」「滞在型の介護施設が不足している」が多かった。

高齢者が積雪期に困ること・心配なことは、「雪下ろしや雪かき」が圧倒的に多く、次が「歩行路の除雪」であって、「訪問介護の回数減少」は 0 であった。倶知安町での回答者は比較的健康な高齢者が多かったようで、このような結果になったと考えられるが、他の地区でも同様な傾向が見られ、高齢者も雪下ろしや雪かきの作業を強いられていることがわかる。なお、倶知安町では、高齢者や身障者のために「除雪ヘルパー」の制度を定め、予算化しており、一冬に 200～230 件の需要がある。

## (4) 介護福祉施設の利用場所

介護福祉施設がどのような場所にあればよいかの質問に対しては、図 4 のように、「静かな自然の中」の希望が 44%と最も多かったが、「一般の住宅がある場

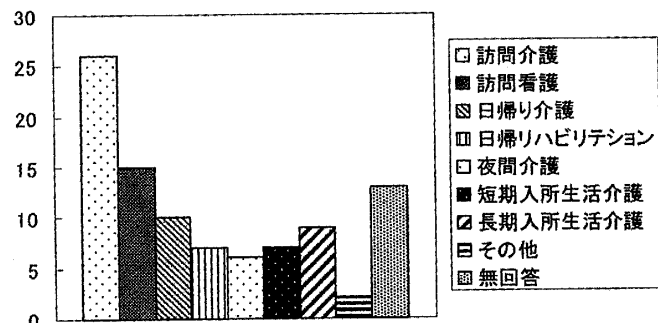


図 1 サービスの利用希望

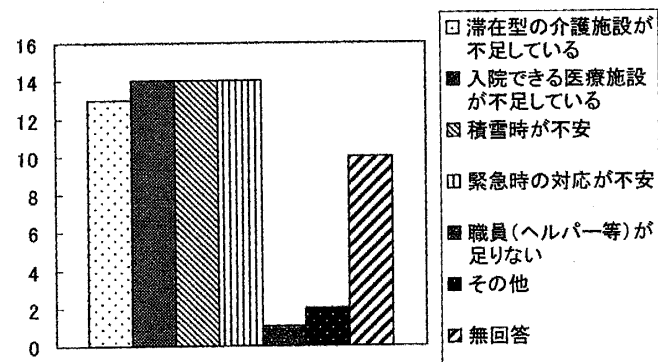


図 2 介護福祉に関する不安

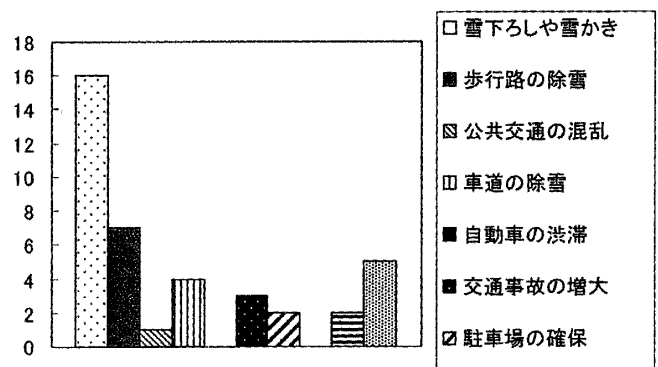


図 3 積雪期に困ること・心配なこと

所」が 27%、「人が集まる賑やかな場所」も 18%の希望があった。

介護福祉施設に他の施設が併設されることには 66%が賛成であり、反対は 14%であった。併設されるとよい施設としては、「病院・診療所」が圧倒的に多かった。

#### (5) 老後の生活

これから先（老後）、施設での生活を望むか、在宅での生活を望むかの質問に対して、「ぜひ施設にしたい」と「条件が合えば施設がよい」を合わせて 35%であるのに対し、「ぜひ在宅にしたい」と「なるべく在宅がよい」は合わせて 39%で、ほぼ同数であった（図 5）。他の地区のほとんどは在宅介護への希望が多かったが、倶知安町では異なる結果であった。また、倶知安町での居住は、「一人になっても住みたい」が 24%、「家族と一緒になら住みたい」が 31%で、「できるならここを離れたい」と考えているのはわずか 7%であった。

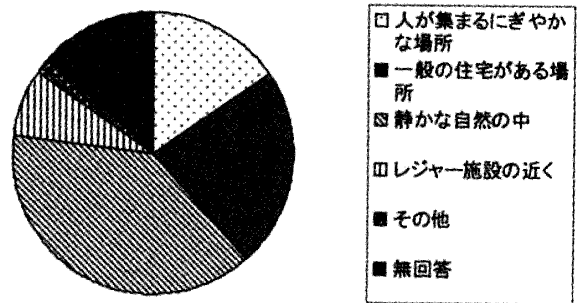


図 4 施設の場所の希望

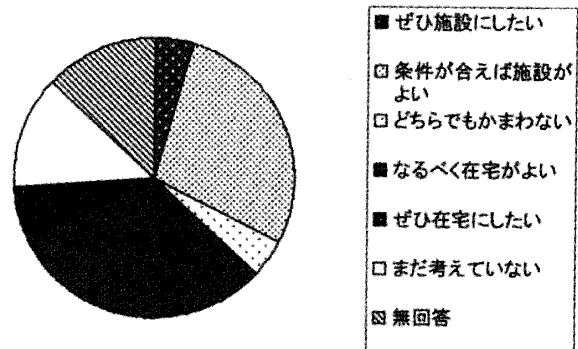


図 5 施設介護と在宅介護

#### 4. むすび

倶知安町の高齢化率は低く、多雪地としては異例である。しかし、特別養護老人ホームの入所待機者はかなり多く、滞在型施設の充実に対する住民の希望も多い。特に、福祉施設としては町内には同一敷地内に同じ社会福祉法人が経営する施設群があるだけである。できれば、介護老人保健施設にショートステイを併設するなど、別に施設を設けることが望ましい。

住民の施設利用率は、このアンケート調査の結果からは、あまり高くない。しかし、ここでは、他の地区と比べ、施設介護への希望が多いという傾向が見られる。したがって、今後は住民が適切に介護福祉サービスを受けることが可能になるように、施設およびサービスの充実を図る必要があるとともに、サービスを受ける側の理解と積極的な姿勢も求められよう。

なお、本研究は平成 15・16 年度福井工業大学特別研究費によってなされたものである。

#### 《参考文献》

- <sup>1)</sup> 前田博司・前田剛司：福井県和泉村における高齢者介護福祉施設，福井工業大学研究紀要，第 32 号，2002. 3
- <sup>2)</sup> 前田博司・前田剛司：福井県今庄町における高齢者介護福祉施設，福井工業大学研究紀要，第 34 号，2004. 3
- <sup>3)</sup> 前田博司・前田剛司：新潟県津川町における高齢者介護福祉施設，福井工業大学研究紀要，第 35 号，2005. 3

(平成17年12月 1 日受理)